2017年3月期
決算説明会

2017年6月1日

確かな品質で豊かな未来につなぐ

Quality,Safety & Originality

前澤給装工業株式会社

目次

1.　2017年3月期　決算概要

2.　2018年3月期　業績計画

3.　2018年3月期　方針等

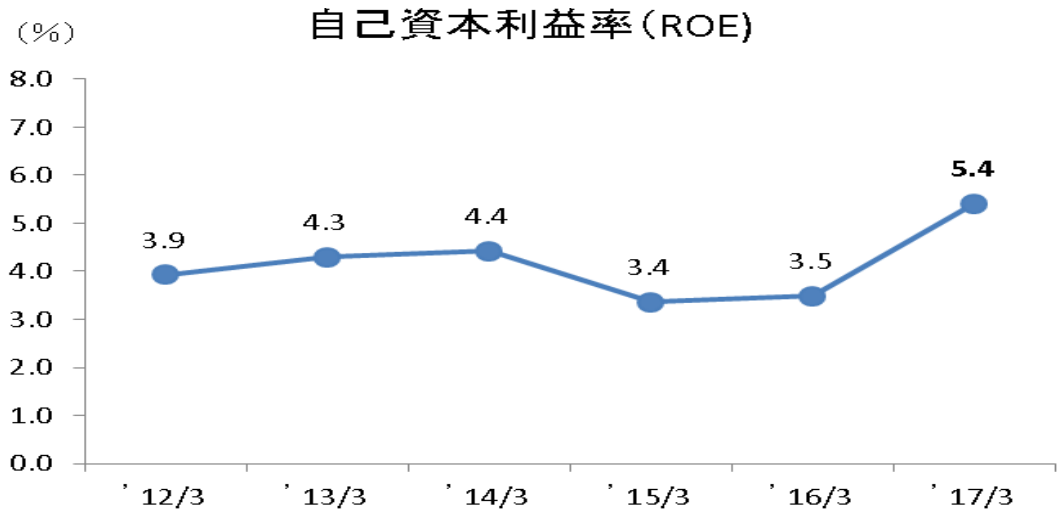
1.　2017年3月期　決算概要

2017年3月期　決算概要

◆決算概要

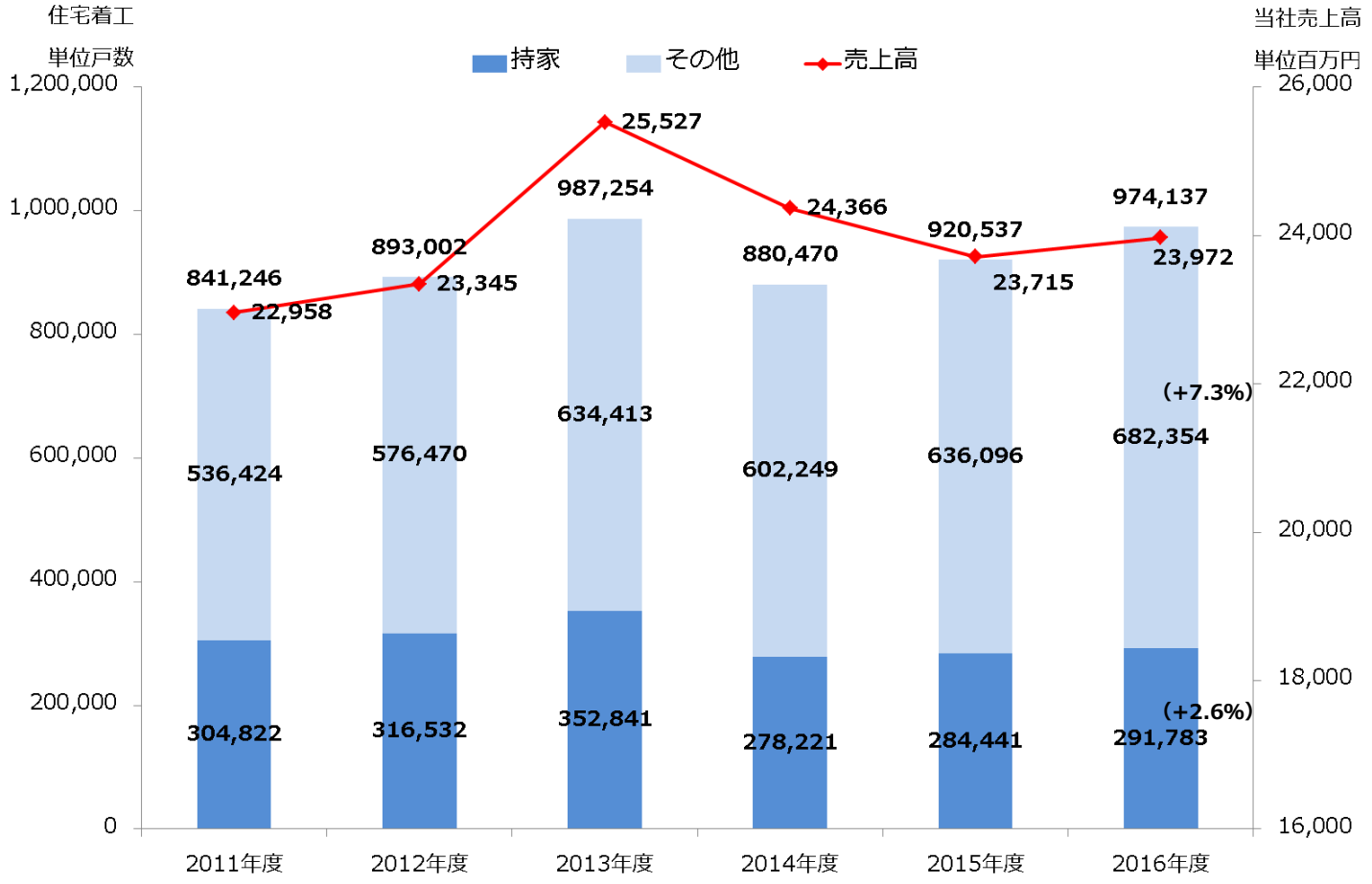
単位：百万円

	2016年3月期		2017年3月期		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	%
売上高	23,715	–	23,972	–	+256	+1.1%
営業利益	1,926	8.1%	2,528	10.5%	+602	+31.3%
経常利益	2,188	9.2%	2,780	11.6%	+592	+27.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,074	4.5%	1,697	7.1%	+623	+58.0%



2017年3月期　決算概要

◆新設住宅着工戸数の推移



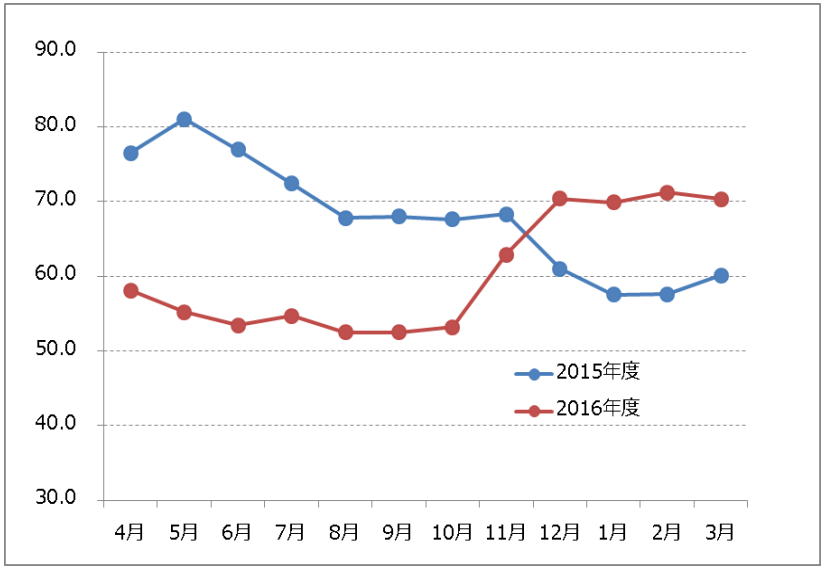
*国土交通省　総合政策局　建設経済統計調査室　「建築着工統計調査報告」より

2017年3月期　決算概要

◆主要原材料の動向

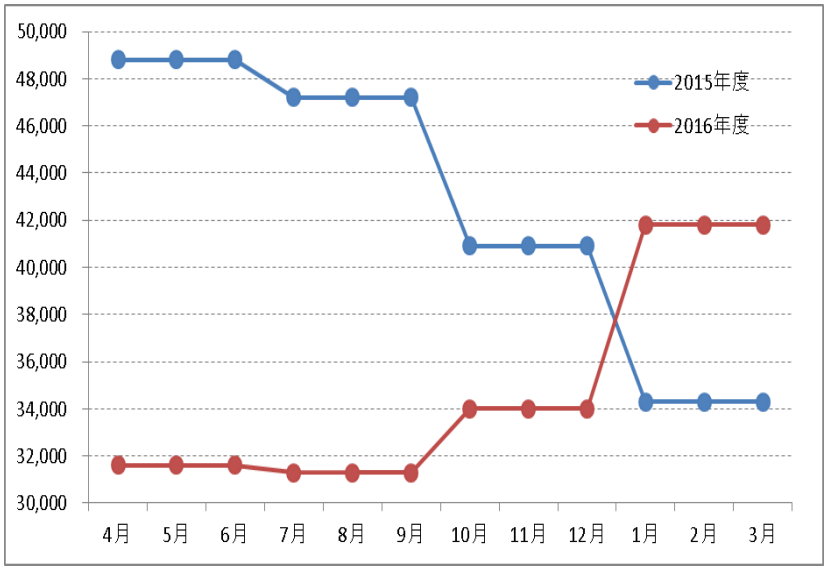
＜銅建値の月平均価格＞

単位：万円/ t



＜国産ナフサ　基準価格＞

単位：円/kl



2017年3月期　決算概要

◆2017年3月期業績（上半期・下半期）

単位：百万円

上半期	2016年3月期	構成比	2017年3月期	構成比	対前年実績増減	
売上高	11,666	–	11,616	–	▲49	▲ 0.4%
営業利益	775	6.6%	1,191	10.3%	415	+53.5%
経常利益	1,006	8.6%	1,361	11.7%	354	+35.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	576	4.9%	742	6.4%	166	+28.8%

下半期	2016年3月期	構成比	2017年3月期	構成比	対前年実績増減	
売上高	12,049	–	12,355	–	306	+2.5%
営業利益	1,150	9.5%	1,337	10.8%	187	+16.3%
経常利益	1,181	9.8%	1,419	11.5%	237	+20.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	497	4.1%	955	7.7%	457	+91.8%

2017年3月期　決算概要

◆セグメント別の状況

単位：百万円

（セグメント年間売上高）	2016年3月期	構成比	2017年3月期	構成比	前期比	
給水装置事業	13,774	58.1%	13,927	58.1%	153	+1.1%
住宅設備事業	4,875	20.6%	5,042	21.0%	167	+3.4%
商品販売事業	4,361	18.3%	4,415	18.4%	54	+1.2%
その他	703	3.0%	585	2.5%	▲117	▲ 16.7%
合計	23,715	100.0%	23,972	100.0%	256	+1.1%

（セグメント年間利益）	2016年3月期	セグメント利益率	2017年3月期	セグメント利益率	前期比	
給水装置事業	3,917	28.4%	4,383	31.5%	465	+11.9%
住宅設備事業	1,075	22.1%	1,130	22.4%	54	+5.1%
商品販売事業	519	11.9%	482	10.9%	▲36	▲ 7.1%
その他	234	33.4%	298	51.0%	63	+27.2%
合計	5,747	24.2%	6,295	26.3%	547	+9.5%

2017年3月期　決算概要

◆貸借対照表の状況

単位：百万円

	2016年3月期末 実績	2017年3月期末 実績	前期比
流動資産	25,609	26,900	+1,290
固定資産	12,752	12,080	▲ 671
資産合計	38,362	38,981	+618
流動負債	6,339	6,037	▲ 302
固定負債	1,108	1,078	▲ 29
純資産合計	30,914	31,865	+950
負債純資産合計	38,362	38,981	+618
自己資本比率	80.6%	81.7%	+1.1pt

2017年3月期　決算概要

◆キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

	2016年3月期	2017年3月期	前期比
現金及び現金同等物（期首）	9,984	10,629	+645
同上の換算差額	▲73	18	+91
営業活動による収入	1,537	1,761	+223
投資活動による支出	▲397	▲305	+92
フリーキャッシュフロー	1,140	1,455	+315
財務活動による支出	▲421	▲809	▲388
現金及び現金同等物（期末）	10,629	11,293	+664

2017年3月期　決算概要

◆販管費・製造費用の状況　＜単体＞

単位：百万円

	2016年3月期	2017年3月期	前期比	
販売費用	3,498	3,598	+100	2.9%
（荷造運送費）	734	754	+20	2.8%
（その他）	2,764	2,843	+79	2.9%
一般管理費用	1,411	1,329	▲82	▲ 5.8%
製造費用	2,025	2,119	+93	4.6%
（労務費）	873	881	+7	0.9%
（経費）	1,151	1,237	+86	7.5%

2.　2018年3月期　業績計画

2018年3月期　業績計画

◆業績計画

単位：百万円

	2017年3月期 実績	構成比	2018年3月期 計画	構成比	前期比	
売上高	23,972	–	24,500	–	+527	+2.2%
営業利益	2,528	10.5%	2,410	9.8%	▲118	▲ 4.7%
経常利益	2,780	11.6%	2,450	10.0%	▲330	▲ 11.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,697	7.1%	1,500	6.1%	▲197	▲ 11.6%

2018年3月期　業績計画

◆業績計画(上半期・下半期)

単位：百万円

上半期	2017年3月期 実績	構成比	2018年3月期 計画	構成比	前期比	
売上高	11,616	–	11,880	–	+263	+2.3%
営業利益	1,191	10.3%	1,130	9.5%	▲61	▲ 5.1%
経常利益	1,361	11.7%	1,150	9.7%	▲211	▲ 15.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	742	6.4%	740	6.2%	▲2	▲ 0.3%

下半期	2017年3月期 実績	構成比	2018年3月期 計画	構成比	前期比	
売上高	12,355	–	12,620	–	+264	+2.1%
営業利益	1,337	10.8%	1,280	10.1%	▲57	▲ 4.3%
経常利益	1,419	11.5%	1,300	10.3%	▲119	▲ 8.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	955	7.7%	760	6.0%	▲195	▲ 20.4%

2018年3月期　業績計画

◆セグメント別の計画

単位：百万円

セグメント年間売上高	2017年3月期 実績	構成比	2018年3月期 計画	構成比	前期比	
給水装置事業	13,927	58.1%	14,410	58.8%	+482	+3.5%
住宅設備事業	5,042	21.0%	5,300	21.6%	+257	+5.1%
商品販売事業	4,415	18.4%	4,140	16.9%	▲275	▲ 6.2%
その他	585	2.4%	650	2.7%	+64	+10.9%
合計	23,972	100.0%	24,500	100.0%	+527	+2.2%

2018年3月期　業績計画

◆設備投資・減価償却費・研究開発費・従業員の動向

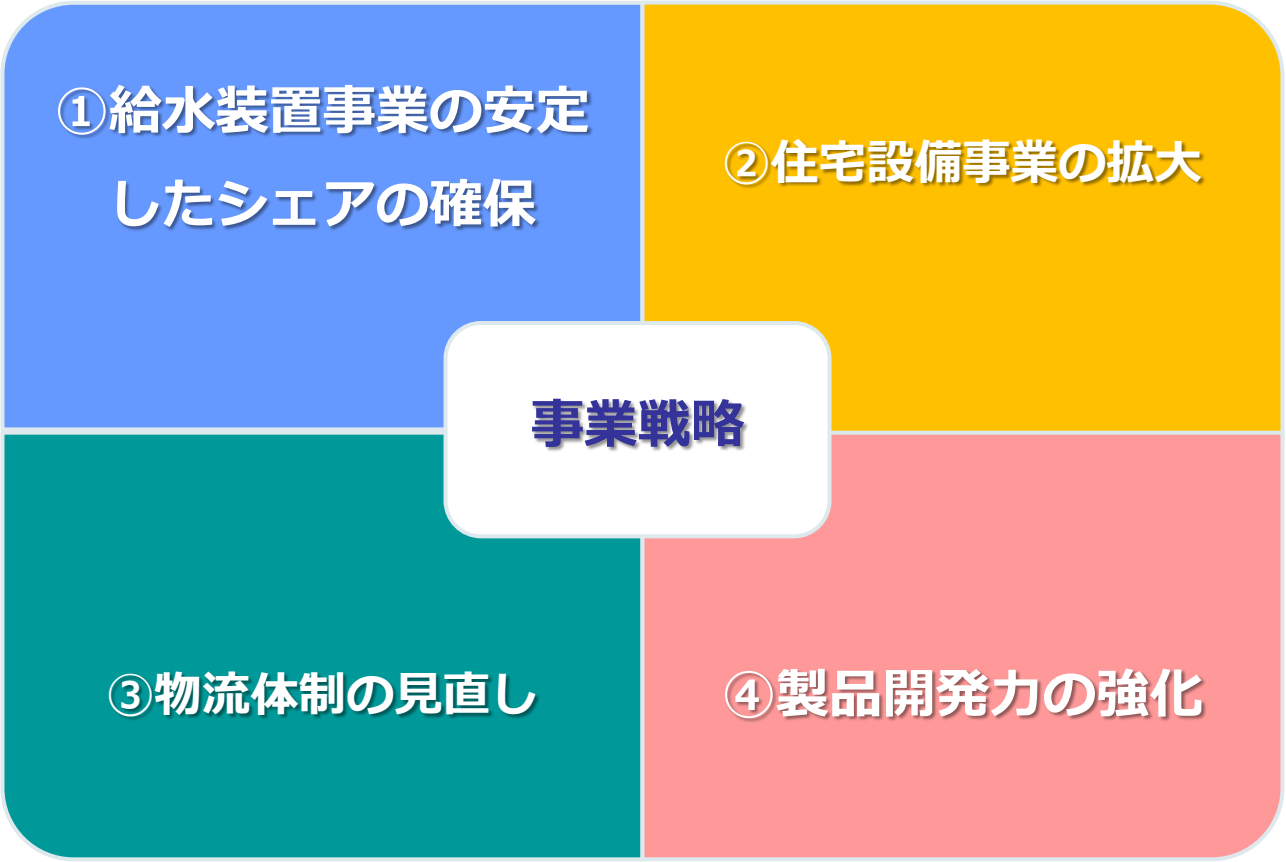
単位：百万円

	2017年3月期	2018年3月期	前期比	
	実績	計画		
設備投資	603	630	+26	+4.4%
減価償却費	563	600	+36	+6.5%
研究開発費	290	330	+39	+13.4%
従業員数（人）	488	490	+2	+0.4%

3.　2018年3月期　方針等

2018年3月期　方針等

◆事業戦略



2018年3月期　方針等

◆取替需要

・水道管の法定耐用年数は40年

・現在の老朽化率は総延長の13.6%で年々増え続けている。

・配水支管の総延長は約580,000Km

・老朽管路の更新は年間約5,000Kmのペースで実施

進む水道管の老朽化

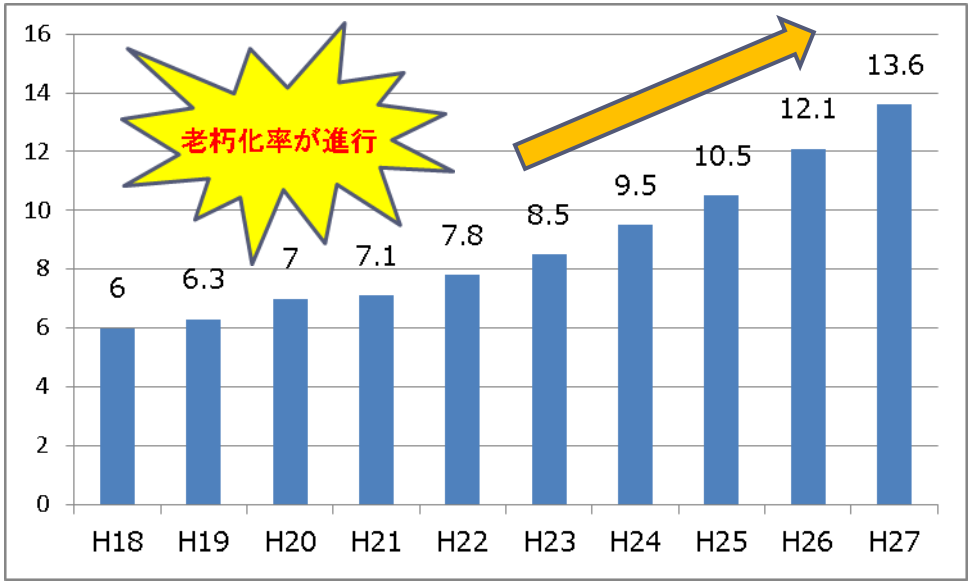
鋳鉄管　Φ200mm
（昭和42年布設）

鋳鉄管　Φ450mm
（昭和29年布設）

鋳鉄管　Φ75mm
（昭和46年布設）

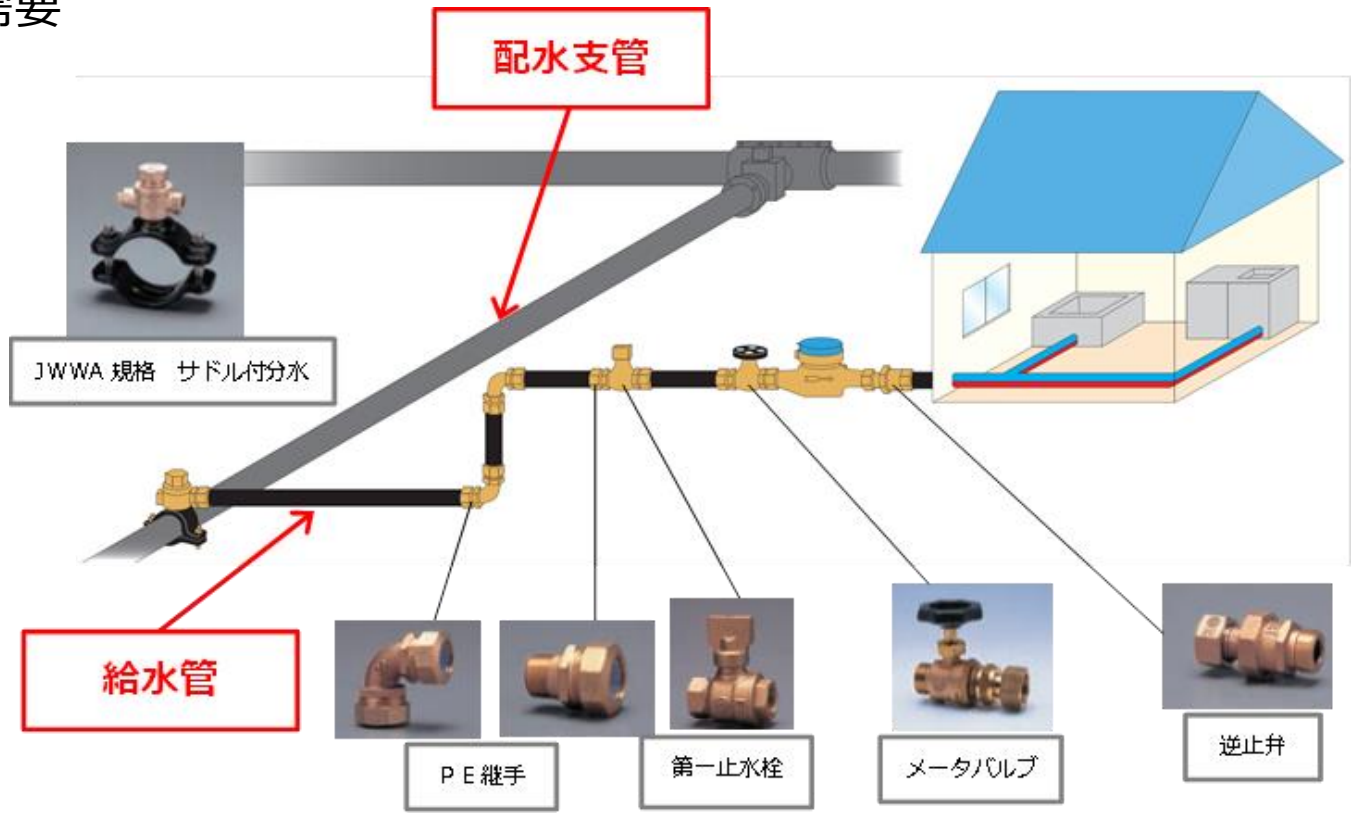
出典「水道統計」

管路経年劣化率（%）



2018年3月期　方針等

◆取替需要



・老朽化した配水支管を更新すると給水管も同時に更新される。

・老朽管の更新は、約5,000km/年
新設管の布設は、約3,000km/年

・給水管更新に伴い、サドル付分水栓を始めとする給水装置製品の取替え需要が発生する。

・合わせて80万栓の需要
（当社シェア40% 35万栓）

2018年3月期　方針等

◆耐震性の高い製品群

サドル付分水栓
（KMPろくろ一体型）

PE継手S型

ろくろ継手

配水ポリ用サドル分水栓

伸縮継手

フレキシブル継手

配水ポリエチレン管　施工現場

地震等による生活給水への影響を最小限にとどめるためにも、耐震化の必要性が求められています。

2018年3月期　方針等

◆水道事業体の広域化への対応

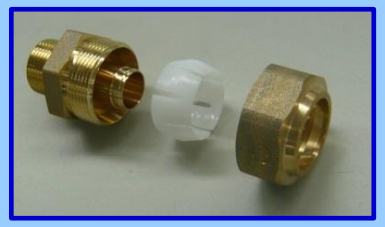
- 水道事業体は全国に約1,400存在
- 平成25年「新水道ビジョン」において、事業統合を含む「発展的広域化」を推進
- 施設の共同化、維持管理の一体化、合理化を図る
- 本年3月　水道事業の統合・広域化を促進する水道法改正案が閣議決定
- 水道事業広域化が更に加速する
- 平成30年4月 香川県において8市8町が事業統合決定

⇒全国初の県内一水道が実現

当社の取り組み（一例）

群馬東部水道企業団

- 平成28年 3市5町（給水人口45万人）が統合・広域化
- 3市5町の給水装置仕様を統一
- 付加価値製品の採用活動



＜新規採用製品群＞

2018年3月期　方針等

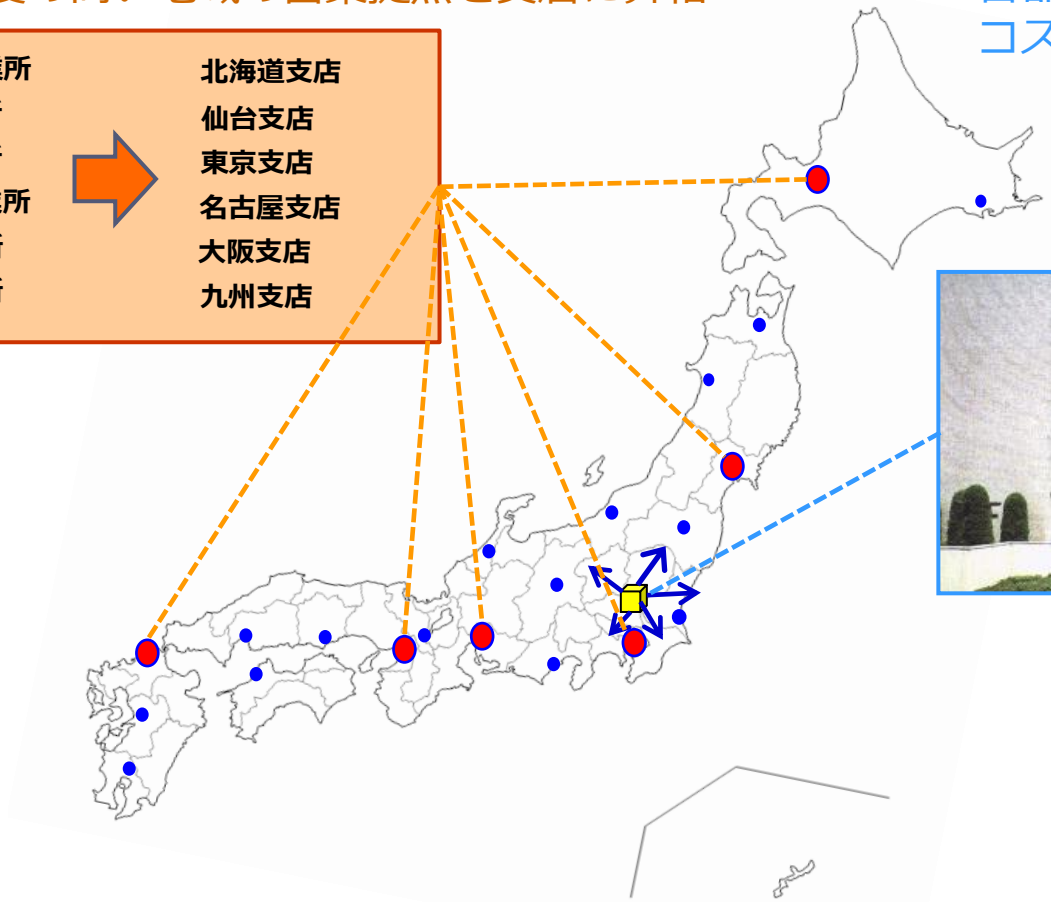
◆住宅設備事業の拡大

人口集積度の高い地域の営業拠点を支店に昇格

北海道営業所	北海道支店
仙台営業所	仙台支店
東京営業所	東京支店
名古屋営業所	名古屋支店
大阪営業所	大阪支店
九州営業所	九州支店

◆物流体制の見直し

首都圏に物流拠点を集約
コスト削減を実現



◆製品開発力の強化

新型Aバルブ東京都型

先行販売を実現！（本年4月より）

従来型 仕切弁

新型Aバルブ

新型Aバルブの特長

①止水性能向上・・・ 仕切弁タイプ　⇒　ボールバルブタイプ

②施工性向上　・・・ ステンレス管との接続はワンタッチ式

③操作性向上　・・・ 90°ハンドル開閉式

2018年3月期　方針等

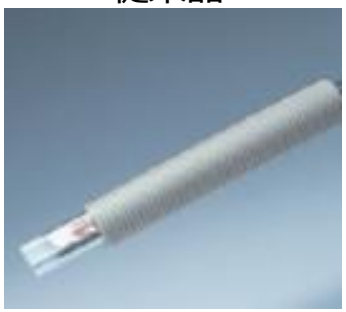
◆製品開発力の強化

①政府目標は2030年までに新築住宅過半数でZEHの実現
②ZEH対応品　市場規模は約10億円と推定

暖房用高断熱ペアチューブ

政府のエネルギー基本計画である
ZEH（ネットゼロ・エネルギー・ハウス）要件対応品

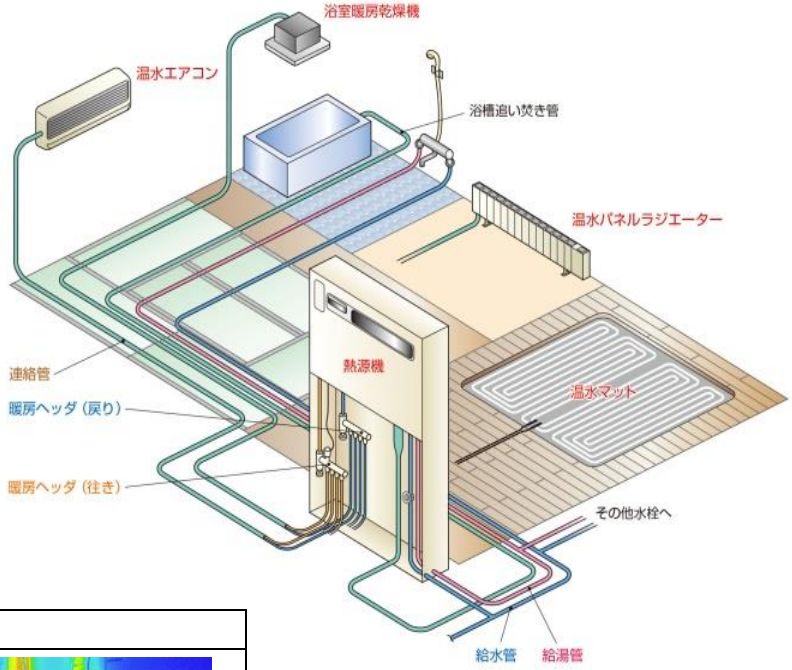
従来品



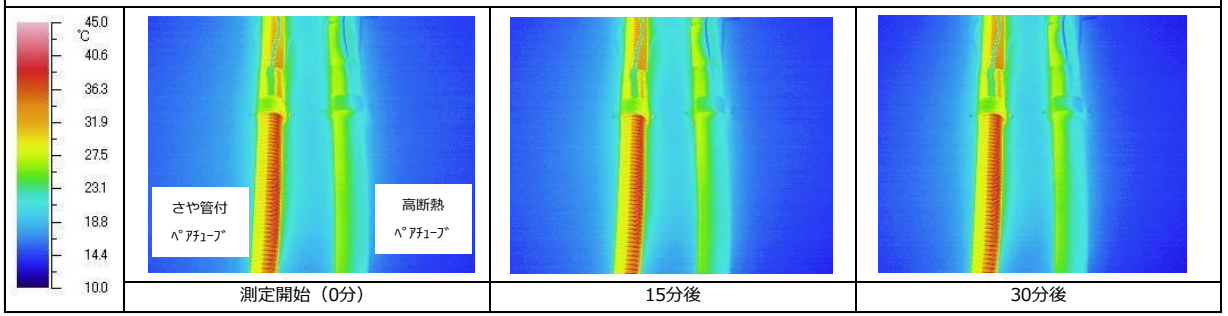
さや管付ペアチューブ

新製品

高断熱ペアチューブ



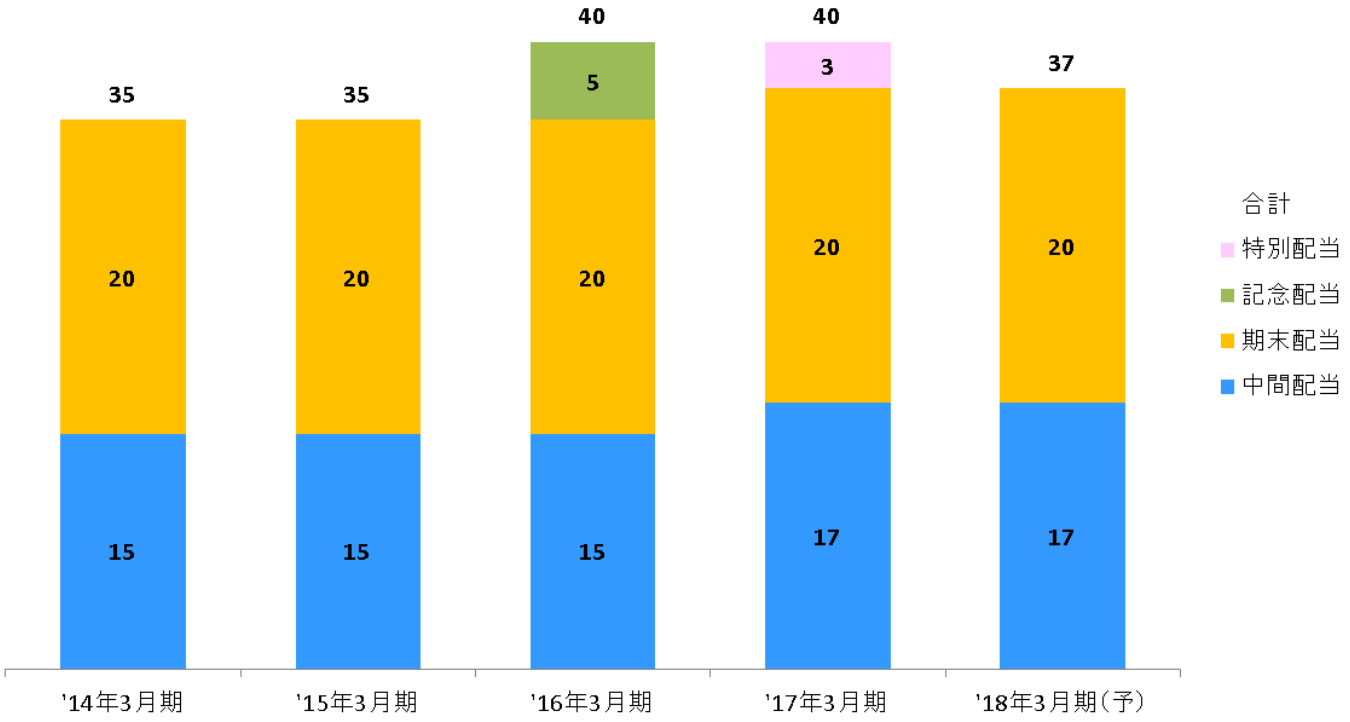
温水温度60℃での表面温度



2018年3月期　方針等

◆配当計画

■'17年3月期は、40円00銭　連結配当性向　28.2%
■'18年3月期は、37円00銭　連結配当性向　29.2%を予定
■安定した利益配分を継続して実施することを基本方針としております。



◆会社指針

Quality, Safety & Originality

～弊社を「人」にあてはめると～

Quality
品質は
人格であり

Safety
安全は
協調であり

Originality
独創は
改革である

Quality, Safety & Originality（QSO = 給装）

品質（Quality）、安全（Safety）、独創（Originality）の略であります。

＜お問い合わせ先＞
前澤給装工業株式会社　事業企画課
電話：03－3716－1513
E-mail: infomaezawa@qso.co.jp